

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>地域社会に積極的に関わり、国際社会のリーダーとして活躍する人材を育成する学校 充実した英語教育・理数教育や海外修学旅行等の学校行事を通じて、地域社会の活性化や世界の発展に貢献できる確かな学力やリーダーシップを身に付け、各方面で活躍する人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<p>○物事を多面的・多角的に捉え、新たな価値を創造する力の育成 ○他者と協働し、予測困難な時代を柔軟に生き抜く力の育成 ○品格を有し、持続可能な社会の開発に貢献する力の育成</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>○一人一人の考えを対話で深める教育活動 ○個のニーズに応じた教育活動 ○地域社会と連携した教育活動</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>○謙虚で知的好奇心に溢れ、向上心がある人 ○社会に貢献する意欲をもち、何事にも積極的に取り組む人 ○多様性を尊重し、他者と協働しようとする人</p>

<p>学校運営計画(4月) 国家社会に貢献できる人材の育成</p>			
学校運営方針	年度重点目標	具体的目標	評価(総合)
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>探究心を刺激し、自律自走する学びのしかけづくり</p>	<p>すべての教科・科目における探究型学習活動の実践と生徒の学習意欲の向上 教科横断による教育活動の工夫・改善</p>	<p>A</p>
<p>創立40周年という節目にあたり、本校がこれまで築き上げてきた「規律ある進学校」としての伝統をさらに発展させるとともに、周年行事を通して「自ら未来をつくる力」を備えた生徒の育成において、一定の成果を確認することができた。 今後、次なる50周年に向けては、予測困難で不確実な現代社会を生き抜く力を育むという新たな時代の要請に応えるべく、教育の質の一層の向上を図るとともに、多様な価値を共有し、国際社会で協働し貢献できる人材を育成する学校づくりをさらに推進していくことが大きな課題である。</p>	<p>「語学」・「科学」・「デジタル」のリテラシーの涵養</p>	<p>社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度を育成するキャリア教育の推進 英語科の「国際理解教育」と数理コミュニケーションコースの「香住丘版理数教育」の更なる充実</p>	
<p>シェアド・リーダーシップの育成</p>	<p>学校行事・生徒会活動及び部活動等を通じた感性の育成</p>	<p>生徒の個性・能力・適性を十分に伸ばしつつ、自他を尊重する高い人権意識と人権感覚の昂揚</p>	
<p>自己評価</p>	<p>生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等</p>	<p>評価(3月)</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価			結果の考察と次年度の課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
			生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)	結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価			
学習支援	学ぶ意欲を高める授業改善	生徒の変容を見取る授業評価の改善と工夫	約90%の生徒が、授業で生徒が主体的に考えたり話し合ったりする場面が設定されていると回答している。 保護者等の70%以上が多面的な学習評価に満足している。	B	A	A	情報活用能力の育成や個別最適な学びの充実に関しては、保護者等の満足度が90%にとどまり、生徒の変容が十分に見えにくい状況にある。ことから、全般的にデジタルを活用した指導の在り方について、さらなる改善と工夫を図る必要がある。	A	・生徒が主体的・対話的に学ぶ授業づくりが全校的に進んでいる。多面的・多角的な学習評価への保護者満足度も高く、学習評価の改善が効果に進展している。 ・英語科(ESS)のディベート大会優勝など学習成果が顕著に表れており、生徒の自律的な学びが確実になっている。 ・保護者がリアルタイムで閲覧できる学習ダッシュボードのようなツールがあるなどいはいはいい。
	自律自走する学びのしくみづくり	資格取得・各種大会への参加促進 学習意欲を喚起する環境の充実	日本学生科学賞で福岡県審査最優秀賞1点をはじめ、英語ディベート大会九州大会優勝、英検準1級取得20名以上など当初の目標以上の成果があった。	A	A		英語科・数理コミュニケーションコースにおける教育資源を普通科一般にも波及させ、生徒の探究心を刺激するしかけを授業や課外活動で更に拡充していくことが求められる。		
生徒支援	生徒のセルフマネジメント力向上	基本的な生活習慣の確立 お互いを尊重し協働するマインドセットの醸成	人権教育において、生徒間で多くの意見と触れ合うことができたとの回答が多く見られた。	A	A	A	自転車通学生へのヘルメット着用率が大幅に向上するなど、様々な社会課題に対して当事者意識をもって行動できる生徒の育成が着実に進んでいる。今後も現行の方針のもと、指導と啓発を継続していく。	A	・人権教育を通じて、生徒が他者理解を深めながら自らの考えを見つめなおす姿勢が育っている。また、ヘルメット着用率の向上に見られるように、生徒が社会的課題を自分ごととしてとらえ、主体的に行動へ移す力も確実になっている。 ・学校行事で生徒が主体の運営が定着しており、自分に合った活躍の場やフォローシップを引き出すような活動となっている。
	生徒が自律できる環境改善	生徒が主体となる教育活動の意識づけ ウェルビーイングが実現できる環境づくりの促進	学校行事における生徒の満足度が90%以上で、保護者等の80%以上が生徒主体の行事となっていると評価している。	A	A		学校行事で実行委員に立候補して積極的に関わろうとする生徒が多く見られ、探究活動では生徒のリーダーが他の生徒を導き、生徒主体の姿勢が培われており、次年度もこの方向での指導を維持・発展させていく。		
キャリア支援	生徒の進路意識の高揚	外部講師等による進路講演会等の充実	生徒の進路行事に対する満足度は高く、保護者等の約60%が進路実現に向けた学校の取組に対して満足傾向にある。	A	A	A	進路講演会や企業訪問、上級学校説明会など体系的なガイダンスが実現できており、この取組を継続するとともに、保護者等にも参加機会を設けるなどして、保護者等の進路行事の満足度を上げる工夫が求められる。	A	・進路講演会や上級学校説明会など多様なガイダンスが体系的に実施されている。また、面接機会の拡充により、生徒が安心して相談できる環境が確保されている。 ・3年夏頃には、進路希望校を自覚をもって伝えられるようになっており、段階的な進路指導の成果を感じる。 ・保護者に対して、オンラインを活用した進路に関する説明会や情報発信があることさらに保護者の理解が深まると考える。
	キャリアサポートの充実	進路の情報提供と相談体制の改善充実 他に貢献できるリーダーの育成	面談の機会を増やすなど、生徒のサポート体制の充実がなされている。また、保護者等の80%以上が学校行事が学校活性化に結びついていると回答している。	A	A		生徒の進路指導に対する満足度と、保護者等の満足度との間には大きな乖離が見られる。特に、保護者等の満足度は60%強にとどまっており、進路情報の提供および発信の在り方について、さらなる改善が必要である。		
学校改善	教員の質の向上	学校内外の組織連携の構築と拡充 研修充実による教師力の向上	組織の心理的安全性の面で課題が指摘され、リーダー層の研修を行い、一定の改善が見られた。	A	A	A	教員間の風通しの良いコミュニケーションが図られる環境づくりを一層推進するとともに、形骸化している研修内容については、技術的な見直しを徹底することが必要である。	A	・組織の心理的安全性に関する課題を真摯に受け止め、組織改善に外部の協力を得ながら取り組まれている。また、外部機関との新たな連携や中学生体験入学参加者の次層な増加が見られるように、学校の能力発信や地域との連携構築が進んでいる。 ・校則の見直しなどにおいても、プロセスを示していただけでなく透明性が増すと考える。
	開かれた学校づくり	外部機関との連携強化 教育活動の外部発信	外部機関との新たな連携が実現できたことに加え、中学生体験入学の参加者が昨年度の2倍となった。	A	A		本校の教育成果を検証するためのデータ収集および分析の在り方を改善し、重点目標に対する成果検証の精度向上を図るとともに、その結果を踏まえた教育活動の成果を学校内外に積極的に発信するためのさらなる工夫が求められる。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<p>・DX推進と英語科・数理コミュニケーションコースの先進的な学びの全校的な波及による学びの質の底上げ</p> <p>・指導の過程の見える化による保護者との「情報共有ギャップ」の解消</p> <p>・風入化した業務の徹底改善と、心理的安全性が確保できる対話重視の組織づくり</p>

学校関係者評価	
<p>評価(総合)</p>	<p>自己評価は A:適切である B:概ね適切である C:やや適切でない D:不適切である</p>
<p>A</p>	<p>評価項目以外のものに関する意見</p>
	<p>特になし</p>